

第五次みやぎ子ども読書活動推進計画に基づく

令和6年度

子ども読書活動に関するアンケート調査

調 査 結 果

令和7年3月

宮城県教育庁生涯学習課

1 目的

本県では、子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年法律第154号）第9条に基づき「みやぎ子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動を推進しています。

現在は、「第五次みやぎ子ども読書活動推進計画」（令和6年度から令和10年度）により、目標達成に向けた基本方針及び活動方針のもと、各種取組を進めています。

このたび実施した「令和6年度子ども読書活動に関するアンケート調査」には、計画の評価指標を把握する調査項目を入れており、調査結果を基に、目標の達成状況について確認を行っています。

計画の基本理念

みやぎの子どもたちが、高い志と思いやりを持ち、主体的に学び、考え、行動できる力を身に付けられるよう、

いつでも・どこでも・自分らしい読書

ができる環境の整備、充実を図ります。

2 対象・期間

(1) 対象

県内の小学3年生から6年生、中学生、高校生から抽出を行った児童・生徒

(2) 期間

調査対象期間：令和6年11月の1ヶ月間

実施期間：令和6年11月末～12月

3 抽出方法

(1) 県生涯学習課が学年（学科）を指定して学校を抽出

(2) 抽出された学校が、指定された学年（学科）のうち任意の学級を1学級以上選択

4 回収率

93.8% （回収数 60学級 / 母数 64学級）

（内訳）

・小学校（27学級 / 28学級） ・中学校（18学級 / 20学級） ・高等学校（15学級 / 16学級）

5 調査項目

1	今年11月の1ヶ月間に本を読みましたか	
2	何冊読みましたか	(1で「読んだ」と答えた人のみ)
3	読んだ理由は何ですか	(1で「読んだ」と答えた人のみ)
4	読まなかった理由は何ですか	(1で「読まなかった」と答えた人のみ)
5	読みたいが読めなかった理由は何ですか	(4で「読みたいが読めなかった」と答えた人のみ)
6	読みたいと思わなかった理由は何ですか	(4で「読みたいと思わなかった」と答えた人のみ)
7	本を読むことが好きですか	
8	「好き」または「どちらかといえば好き」な理由は何ですか	(7で「好き」等と答えた人のみ)
9	「嫌い」または「どちらかといえば嫌い」な理由は何ですか	(7で「嫌い」等と答えた人のみ)
10	去年と比べて本を読むようになりましたか	
11	どのようにして本を手に入れることが多いですか	
12	学校の授業以外で図書館から本を借りたことがありますか	
13	電子書籍を読んだことがありますか	
14	今年11月の1ヶ月間に電子書籍を読みましたか	
15	1日にスマートフォン（携帯電話）を何時間使いますか	

6 調査結果

【1ヶ月間に読んだ本の冊数】

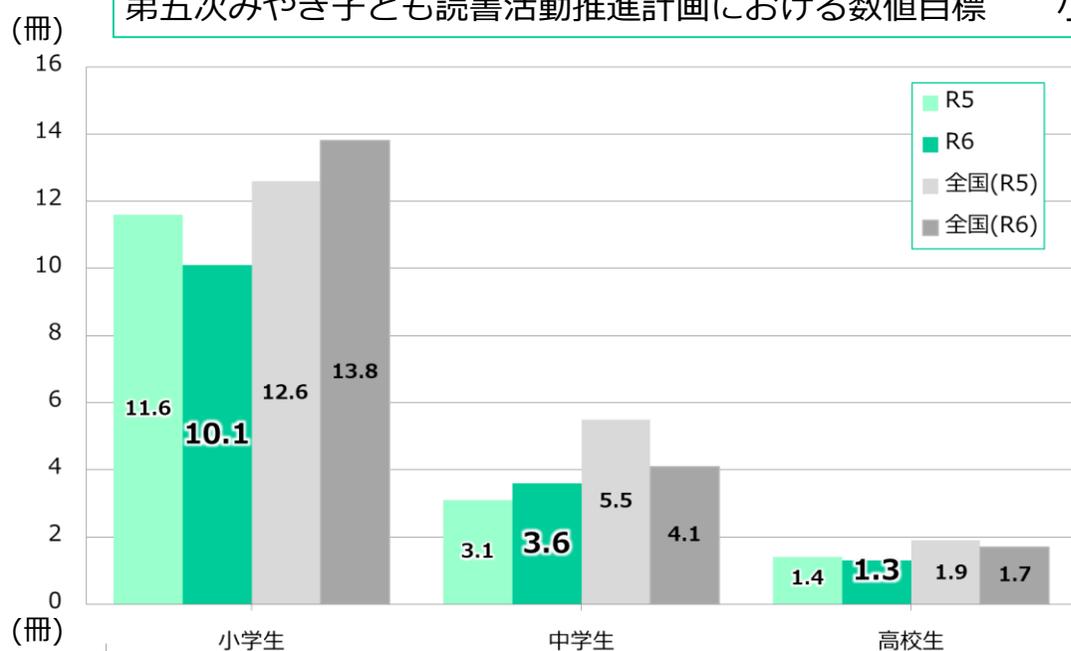
計画の評価指標

第五次みやぎ子ども読書活動推進計画における数値目標

小学生**13.1冊以上**

中学生**4.6冊以上**

高校生**2冊以上**

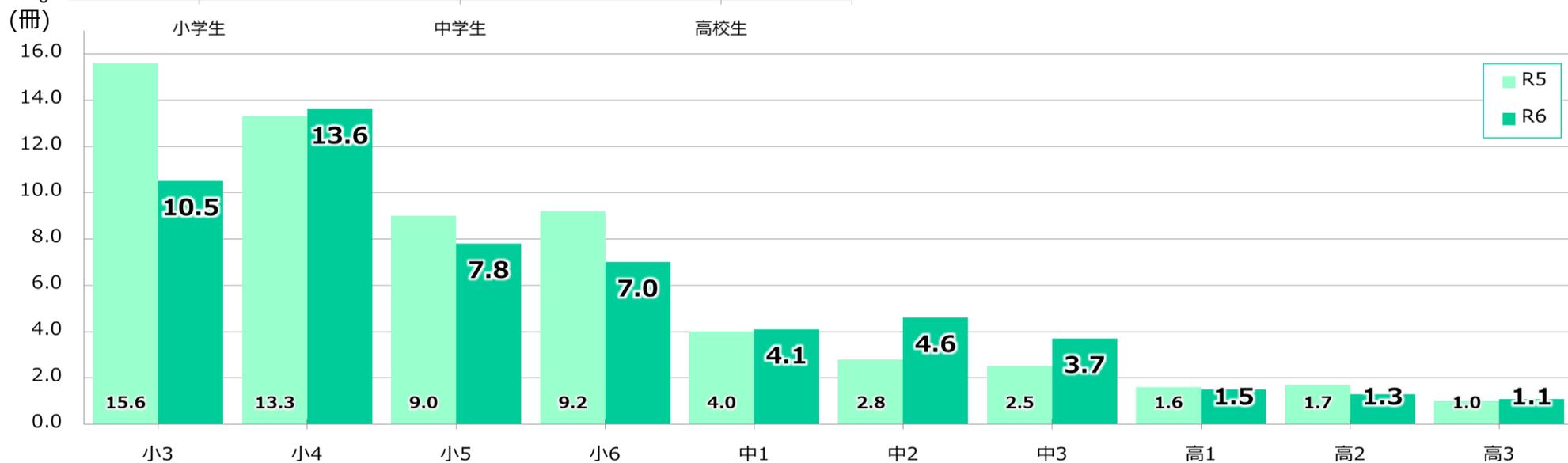


左図が校種別、下図が学年別の数値を表したグラフ。

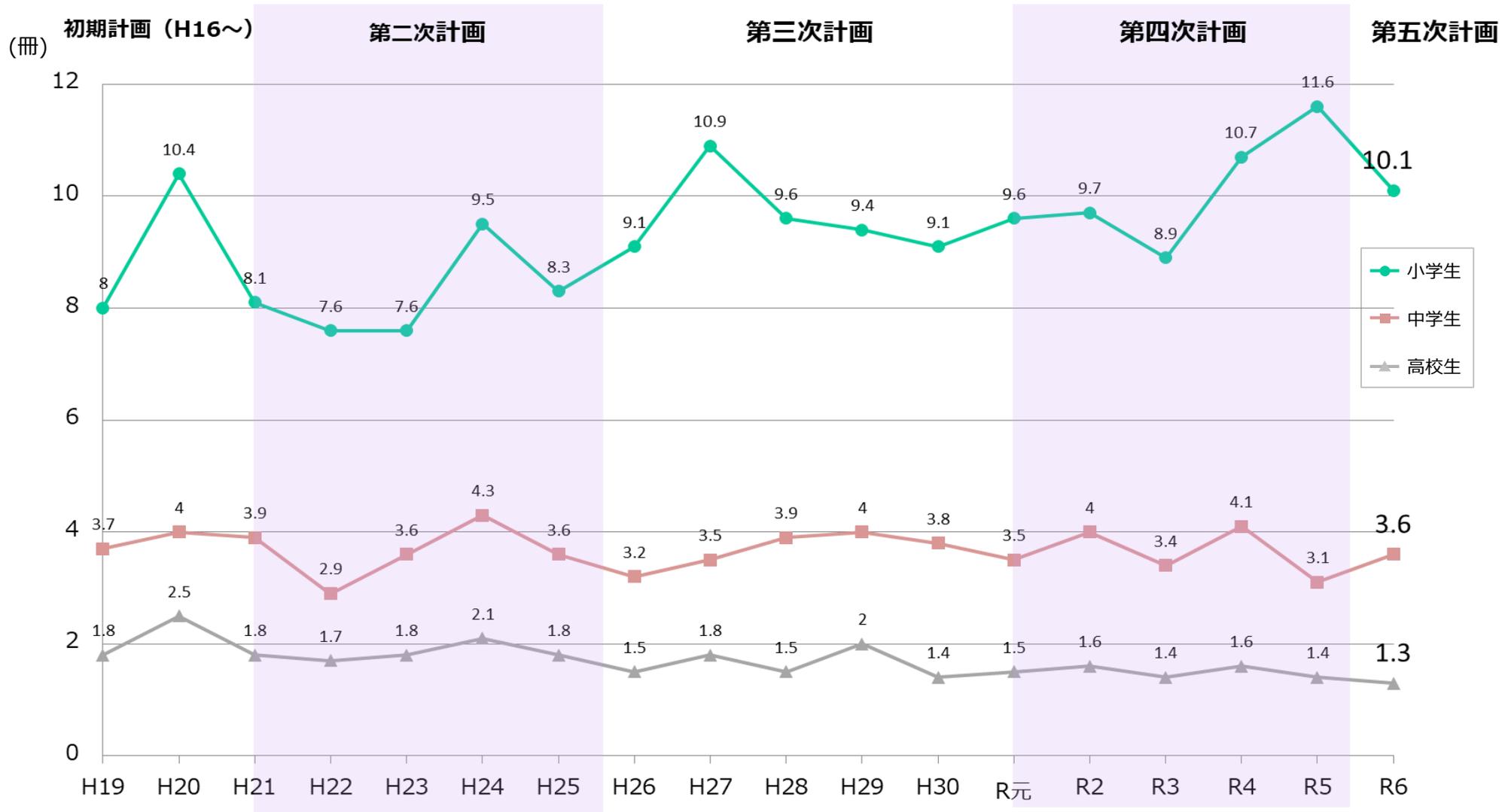
昨年度から、小学生-1.5冊、中学生+0.5冊、高校生-0.1冊となり、**中学生のみ対前年比増**となった。

学年別に見ると、**小学3年生・6年生の減少**と**中学2年生・3年生の増加**が顕著である。

計画における数値目標は上枠のとおりであり、**全ての校種で目標を達成できなかった**。



【平均読書冊数の推移】

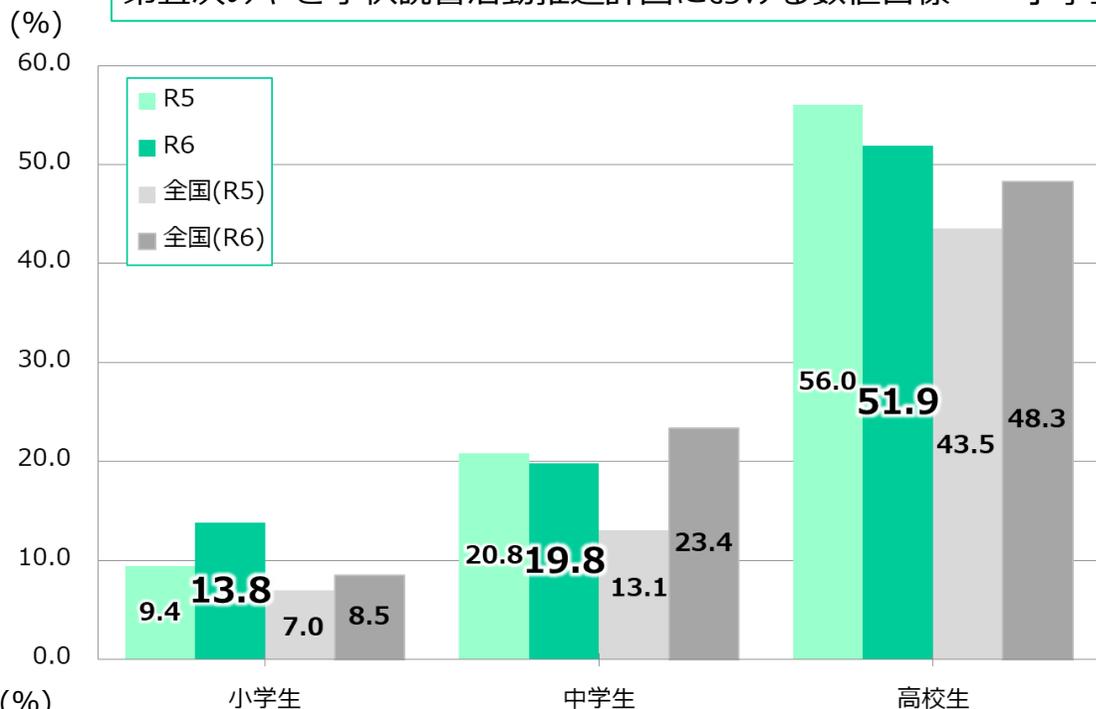


小学生は増加と減少を繰り返しながらR5を頂点にしてゆるやかに増加傾向となっている。

中学生及び高校生は調査開始時から類似の数値変動となっているが、R6の高校生は1.3冊となり最も少なかった。

【不読率（本を1ヶ月間に1冊も読まなかった児童・生徒の割合）】 計画の評価指標

第五次みやぎ子供読書活動推進計画における数値目標 小学生**7%**以下 中学生**16%**以下 高校生**39%**以下

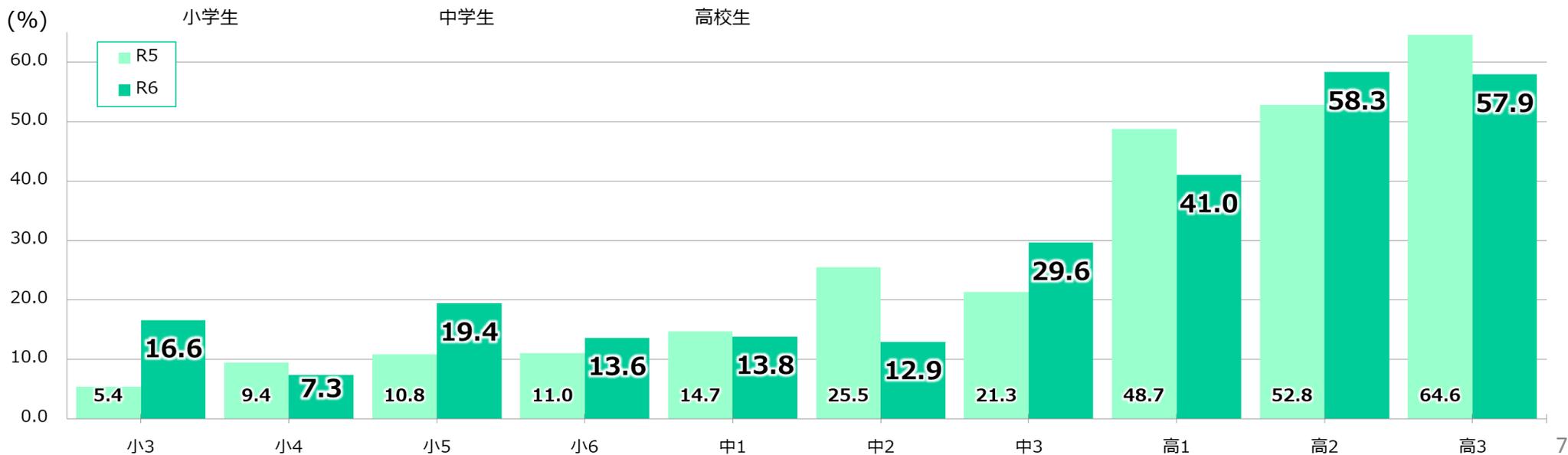


左図が校種別、下図が学年別の数値を表したグラフ。

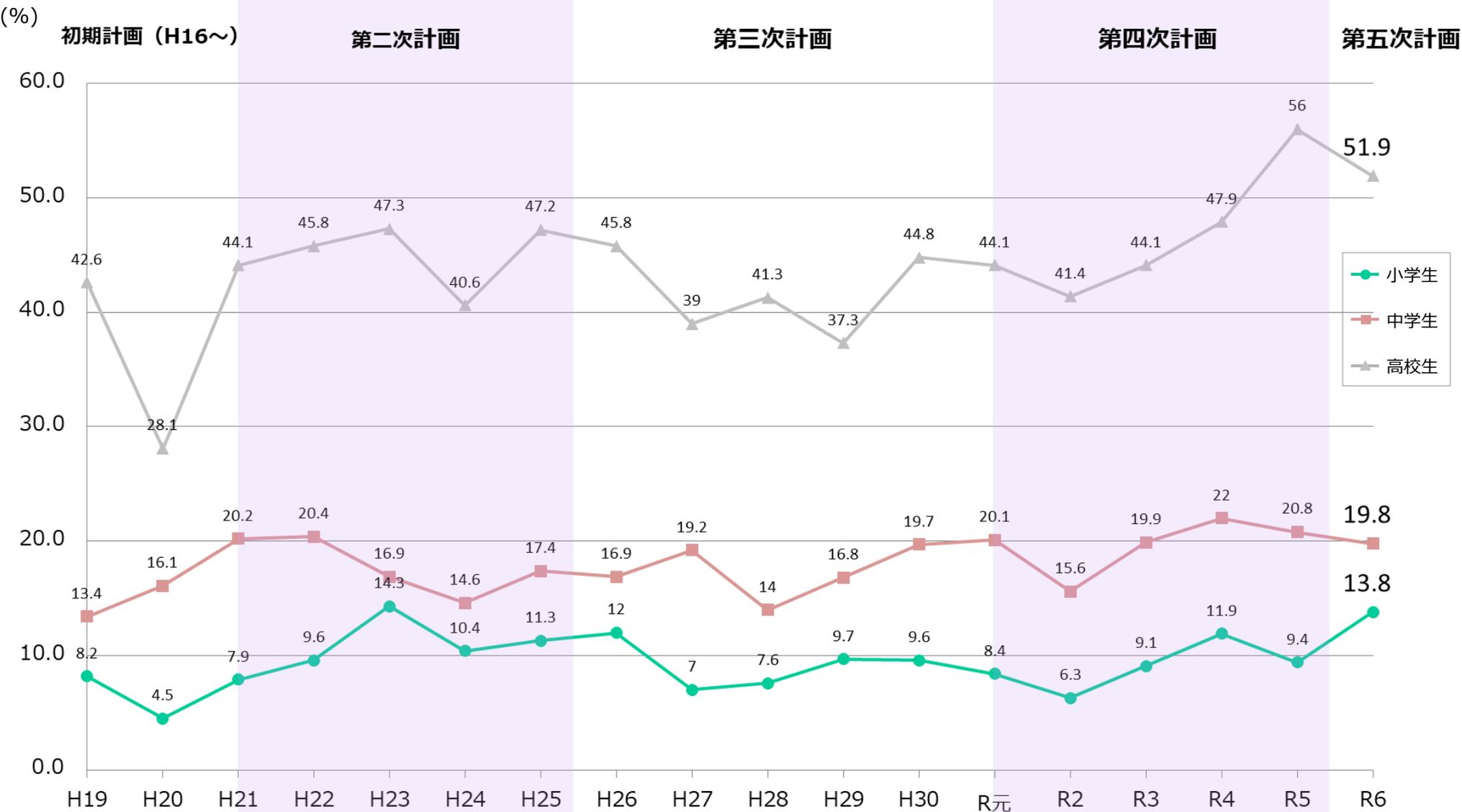
昨年度から、**小学生は+4.4ポイント**となったが、**中学生は-1.0ポイント**、**高校生は-4.1ポイント**となり、中学生及び高校生は対前年比減となった。

学年別に見ると、**小学3年生と小学5年生が大幅な増**となっている。また、**中学2年生、高校1年生と高校3年生が大幅な減**となっている。

計画における数値目標は上枠のとおりであり、全ての校種で目標を達成できなかった。



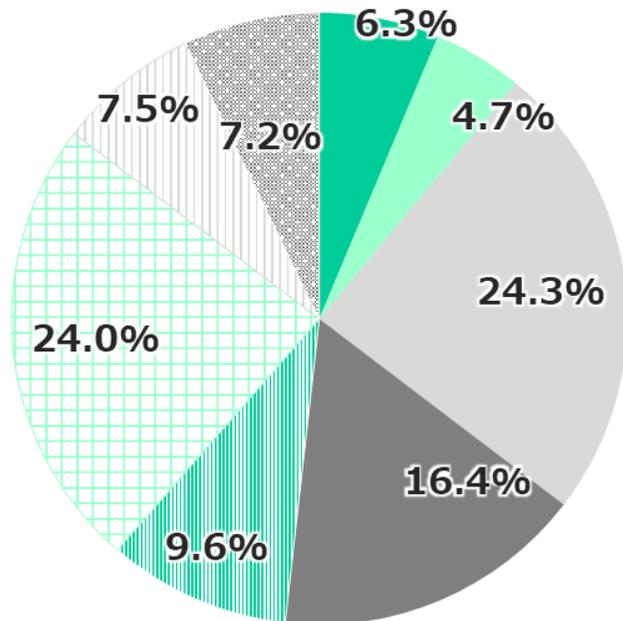
【不読率の推移】



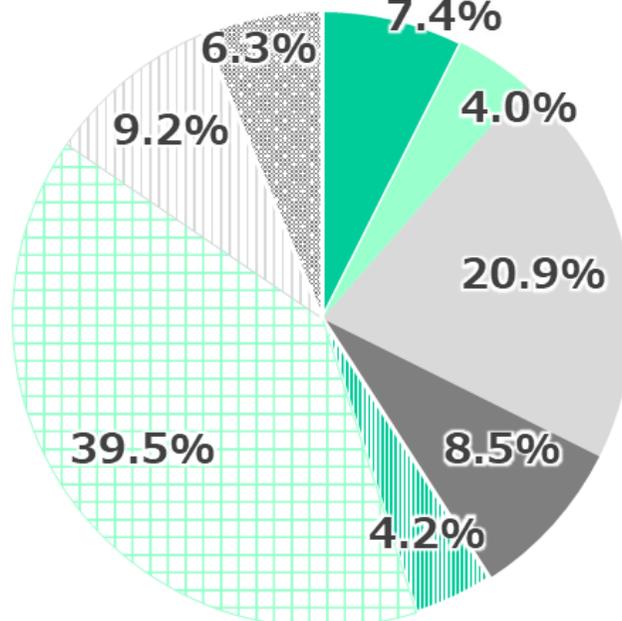
高校生は不読率が最も高かったR5より減少した。中学生はほぼ横ばいとなっているが、ここ数年は減少傾向にある。小学生はこれまで最も高かったH23の14.3%の次に高く、**13.8%**となった。

【本を読んだ理由】

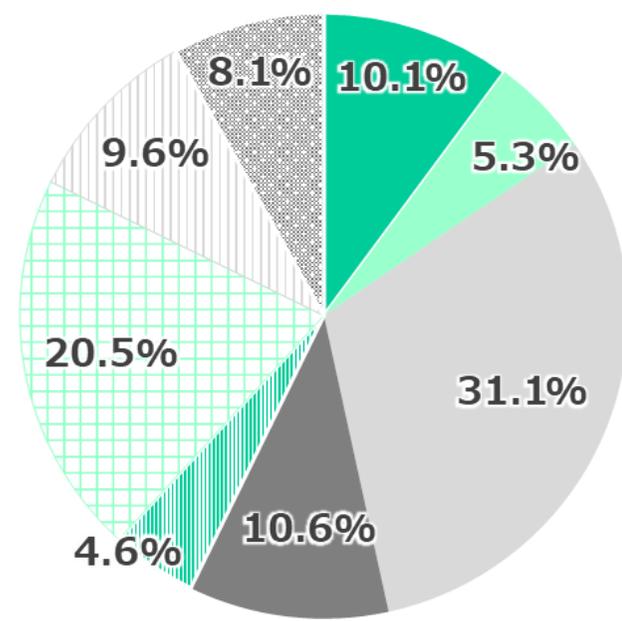
小学生



中学生



高校生



■ 話題の本があったから

■ 友達・家族・先生から読書をすすめられたから

■ 本を読むことが好きだから

■ 知らないことがわかるから

■ 学校の勉強になるから

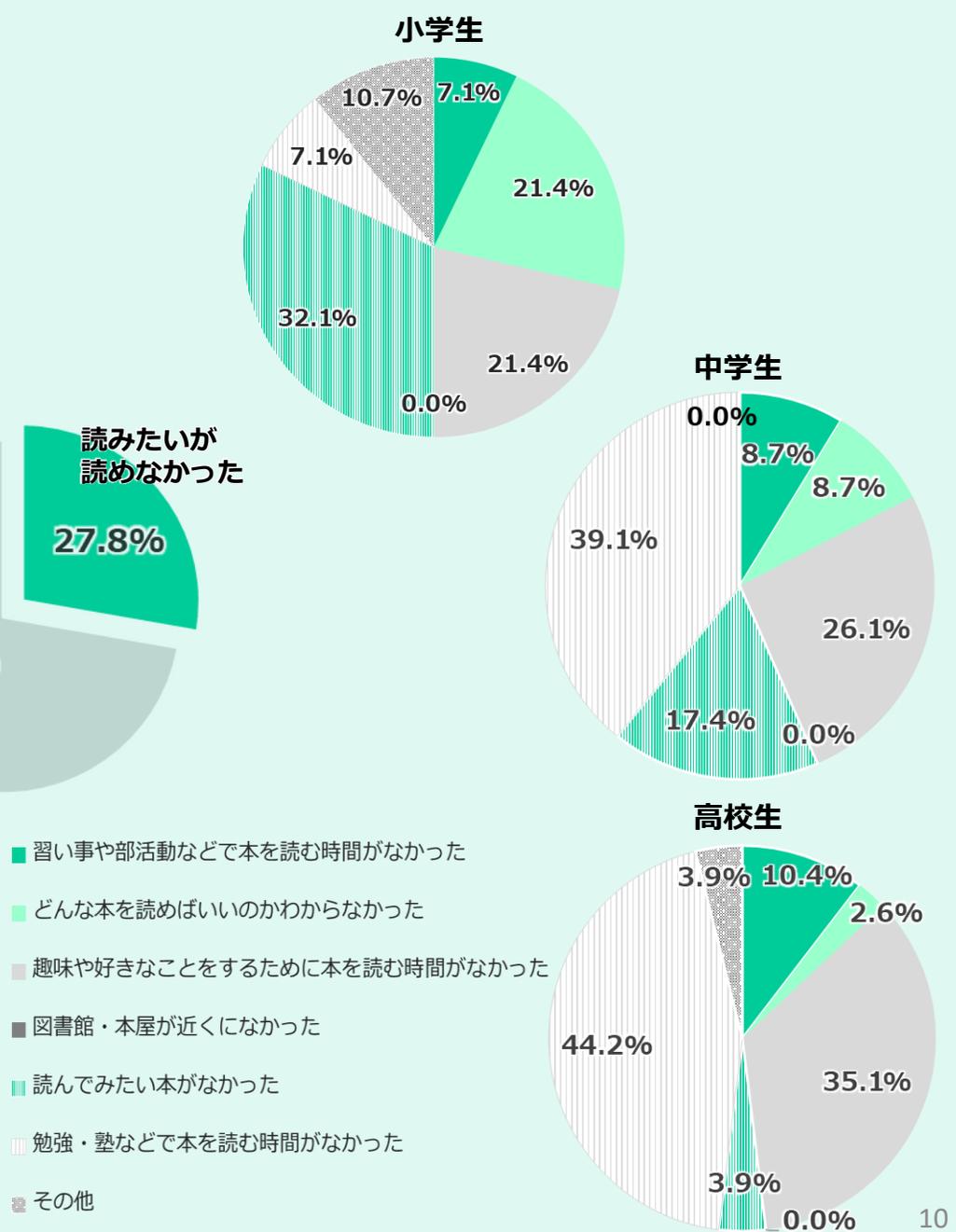
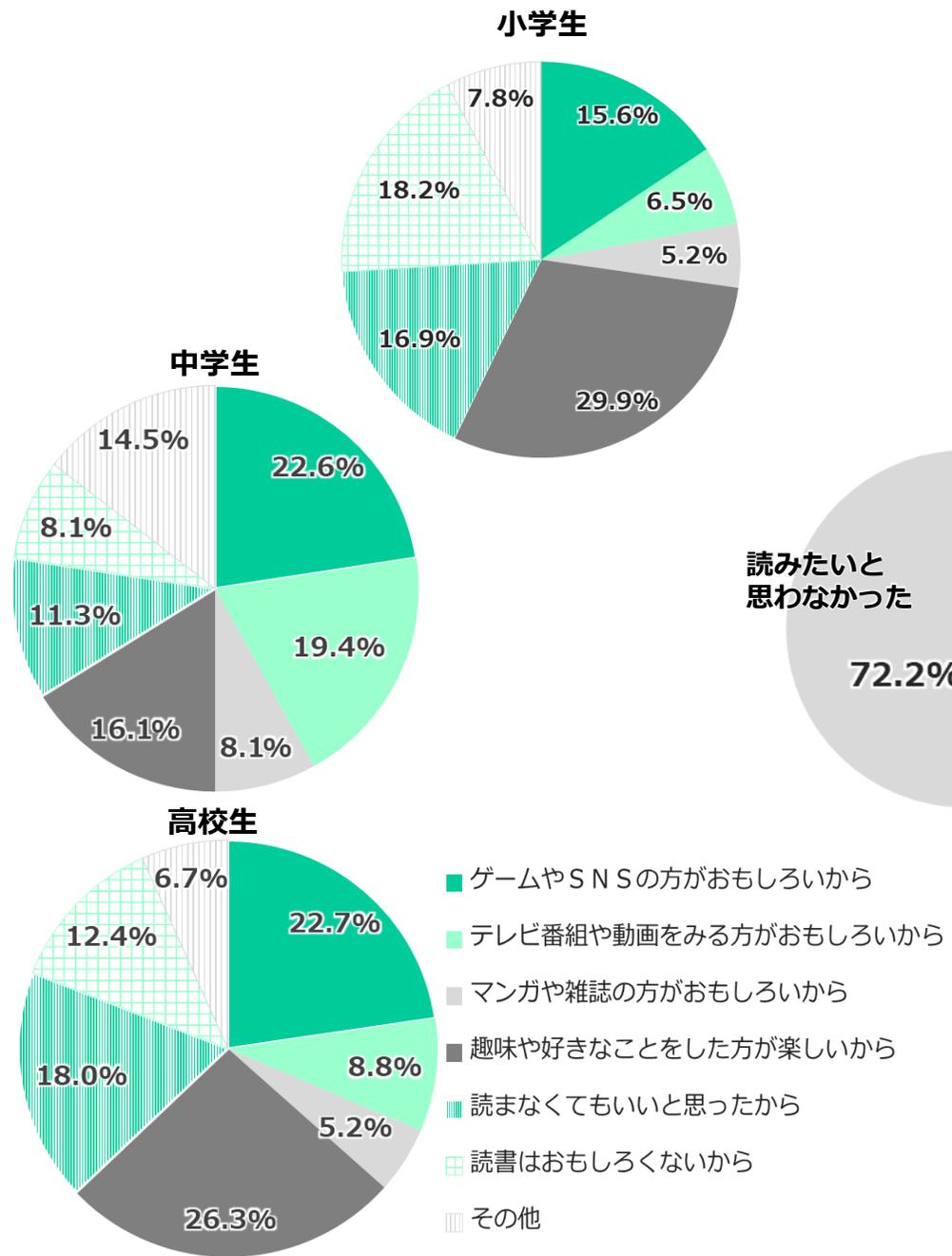
■ 学校で読む時間があったから(朝読書の時間など)

■ テレビや映画をみて、原作を読んでみようと思ったから ■ その他

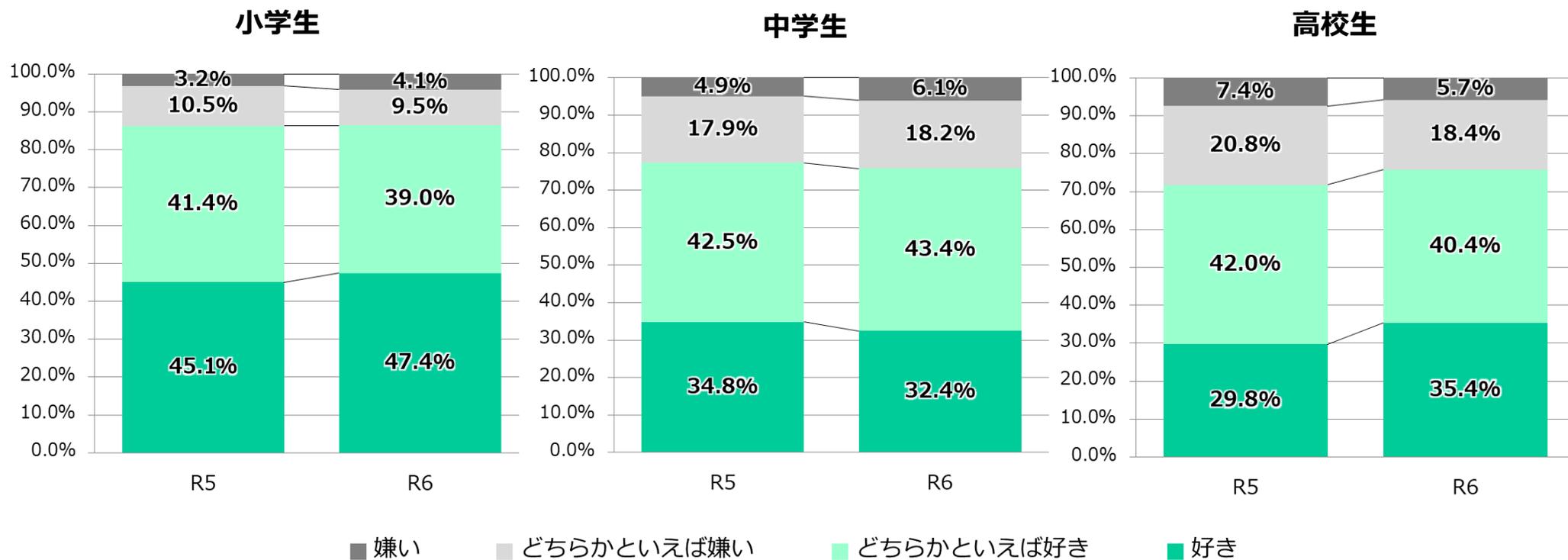
小学生及び高校生は「本を読むことが好きだから」が最も多いのに対し、中学生は「学校で読む時間があったから」が最も多く約4割、次いで「本を読むことが好きだから」が2割程度となった。

一方、「友達・家族・先生から読書をすすめられたから」は小学生と中学生で最も少ない割合であり、高校生は二番目に少ない割合である。また、「学校の勉強になるから」は高校生で最も少なく、中学生で2番目に少ない割合である。

【本を読まなかった理由】



【読書の好き嫌い】

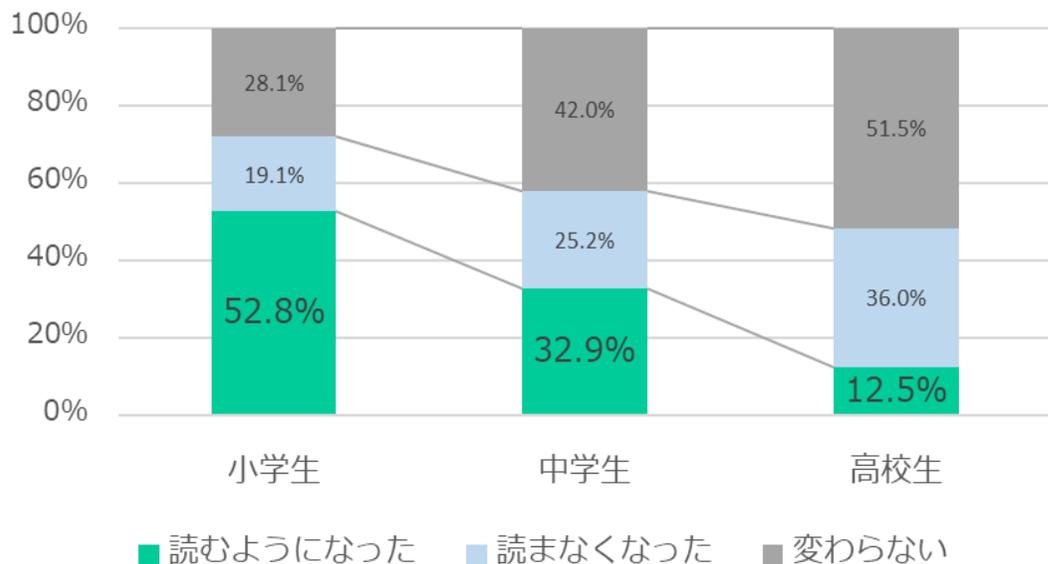


昨年度と比較すると、**小学生**は「好き」が**+2.3ポイント**となり、「好き」または「どちらかといえば好き」と答えた児童が**全体の約8割**を占めている。

中学生は「好き」が**-2.4ポイント**となり、「好き」または「どちらかといえば好き」と答えた生徒が**やや減少**したが、**全体の約7割**を占めている。

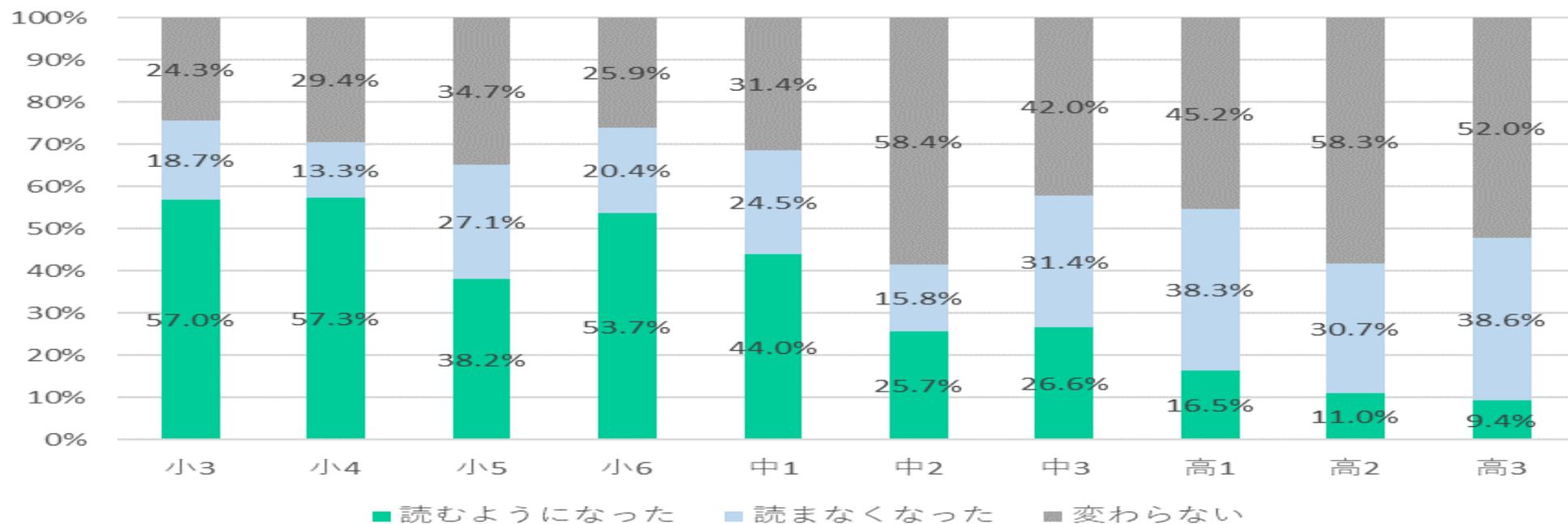
高校生は「好き」が**+5.6ポイント**となり、「好き」または「どちらかといえば好き」と答えた生徒が**やや増加**し、**全体の約7割**を占めている。

【去年と比較した読書頻度】

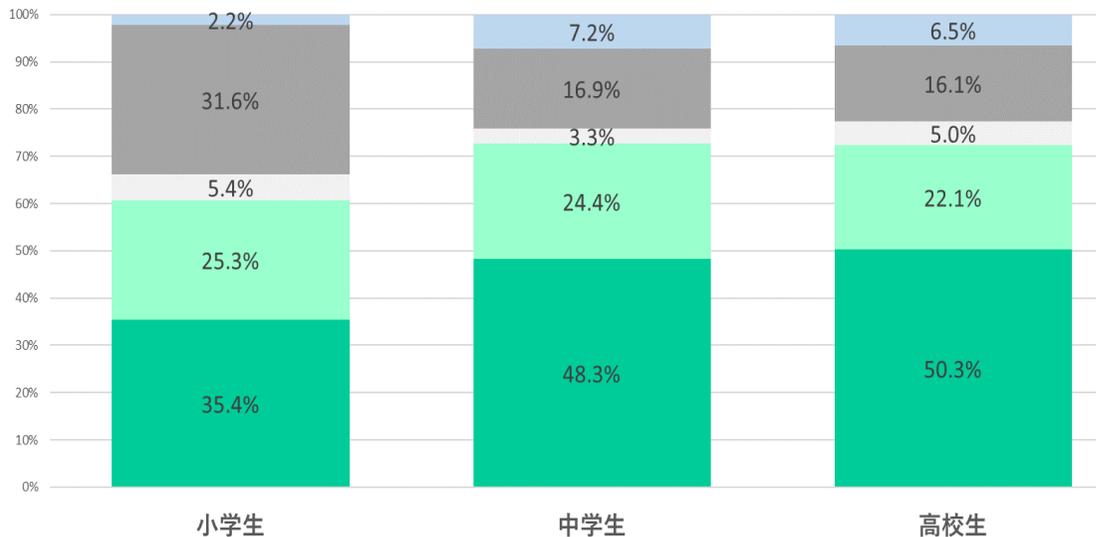


左図は校種別、下図は学年別の数値を表したグラフ。
校種が上がるにつれて「読むようになった」が少なくなり、「読まなくなった」「変わらない」が多くなっている。

学年別に見ると、小学生のほとんどの学年で「読むようになった」が50%を超えている。一方、中学3年生以上の全ての学年で「読まなくなった」が30%を超えており、不読率との関連が推測できる。



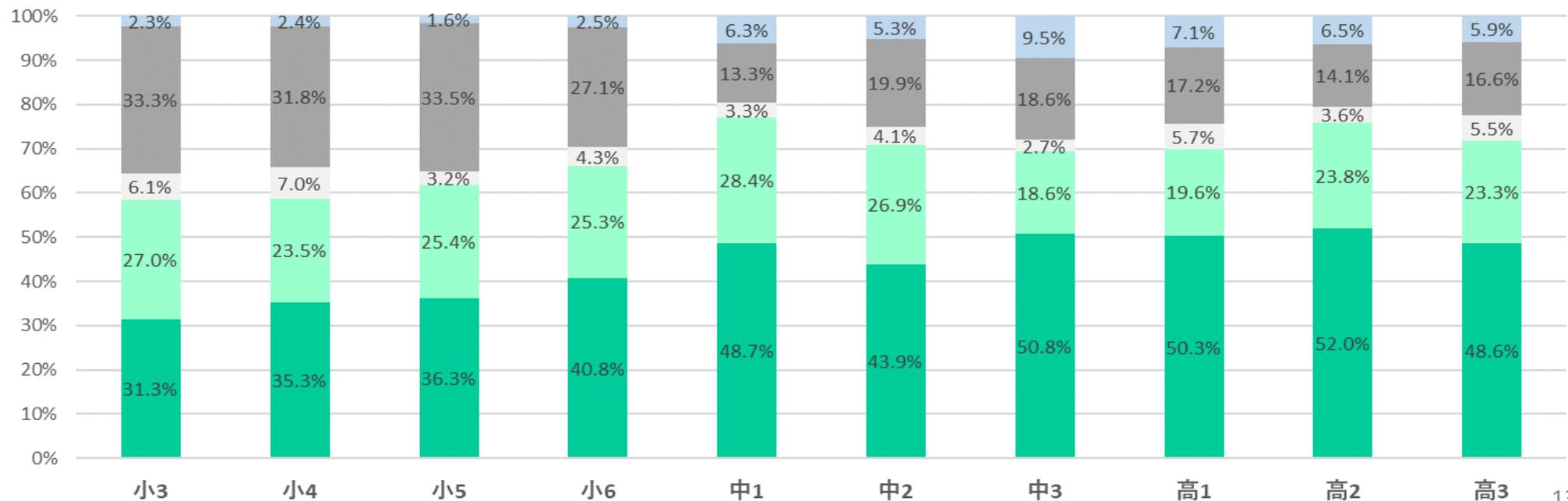
【本の入手方法】 ※複数回答可



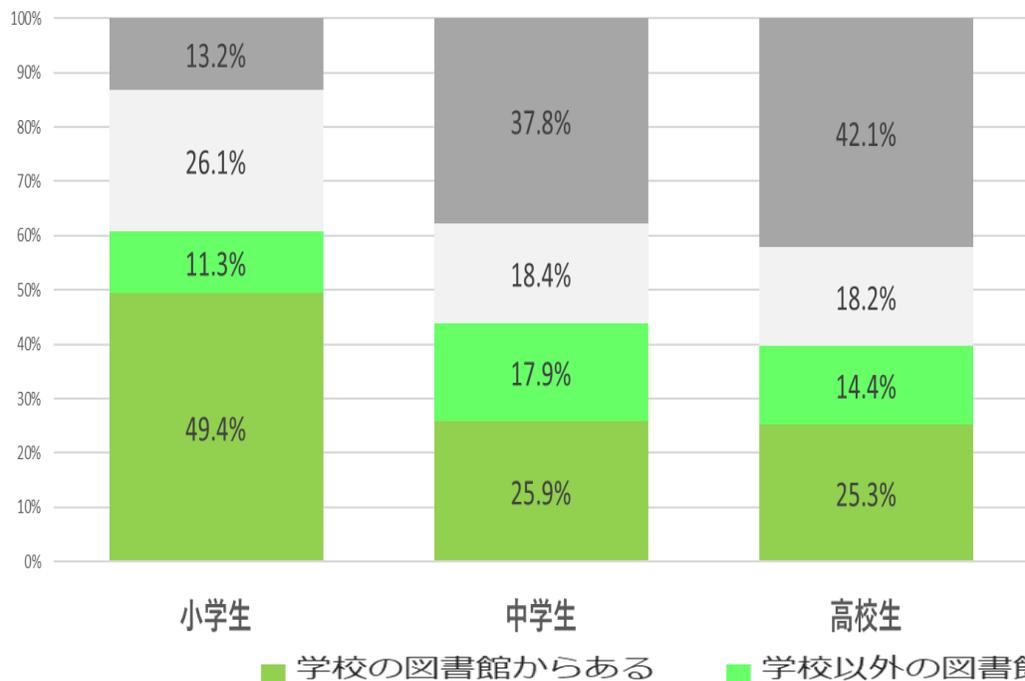
左図は校種別、下図は学年別の数値を表したグラフ。
校種が上がるにつれて「買う(買ってもらう)」が多くなっている。小学生は「学校の図書館から借りる」が最も多い。

学年別に見ると、小学6年生を境に、「学校の図書館から借りる」が減り、「買う(買ってもらう)」が増えていることが分かる。

■ 買う(買ってもらう) ■ 家にある本を読む ■ 学校以外の図書館から借りる ■ 学校の図書館から借りる ■ 友達・家族・先生から借りる



【各種図書館の利用経験（学校の授業を除く）】

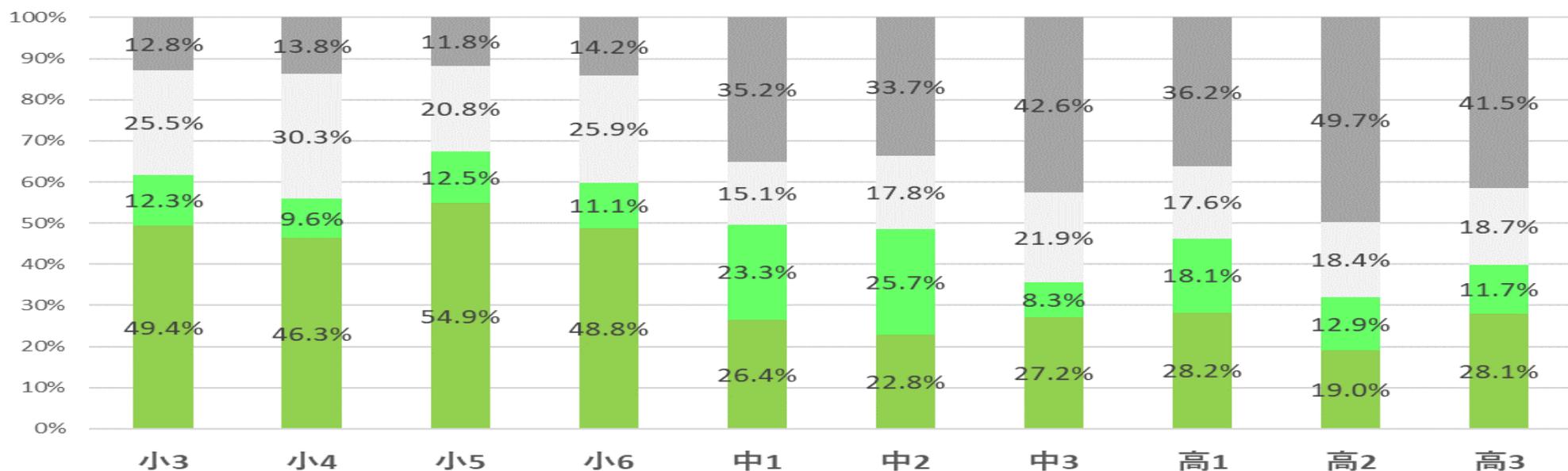


左図は校種別、下図は学年別の数値を表したグラフ。

校種が上がるにつれて「どちらもない」が多くなっている。

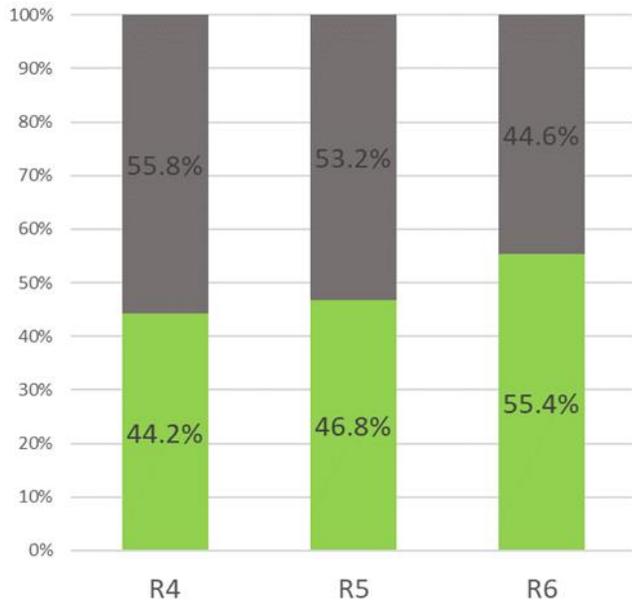
小学生は、「学校の図書館から借りたことがある」が最も多くて、およそ90%の児童は学校または学校以外の図書館で本を借りたことがあることが分かる。

一方で学年別に見ると、中学3年生、高校2年生、高校3年生の40%以上は、図書館の利用がないことが分かる。



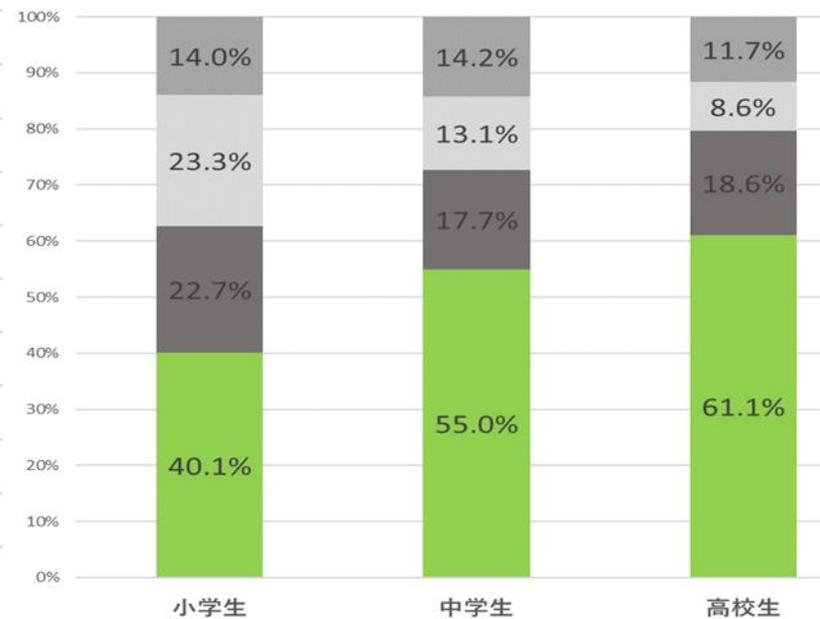
【電子書籍の読書経験】

(図1)



■ 読んだことがある ■ 読んだことがない

(図2)



■ 読んだことがある
■ 読んだことはないが読んでみたい

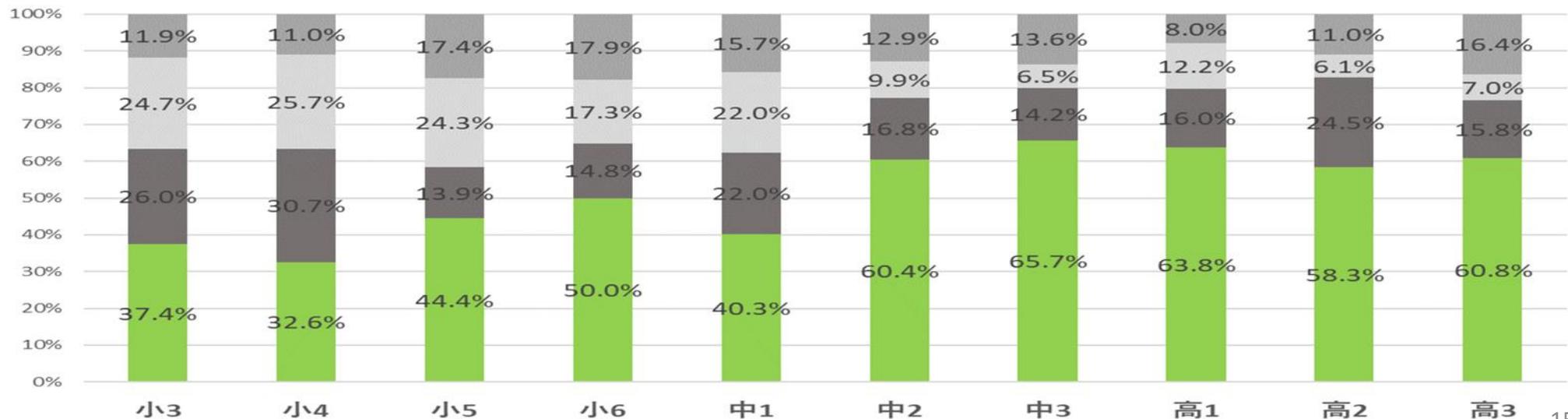
図1は全体の数値（全ての校種合算）を比較したものの、

年々「読んだことがある」が増えていることが分かる。

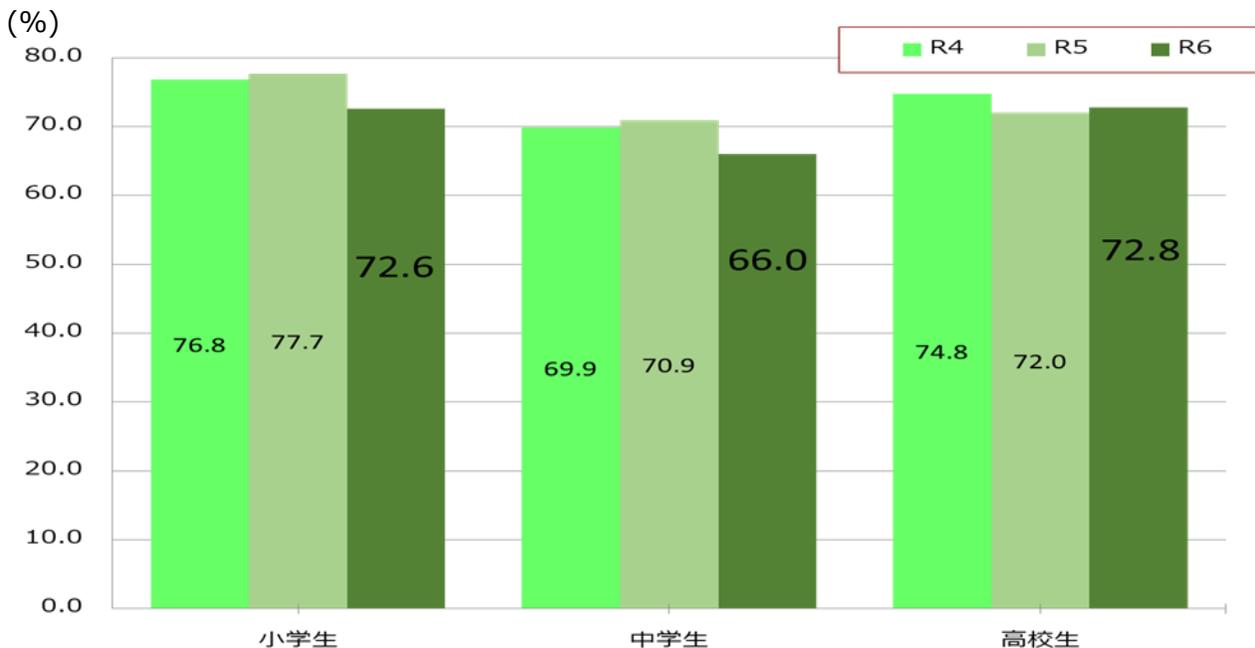
図2はR6の校種別の数値であり、校種が上がるにつれて「読んだことがある」多くなっている。

図3はR6の学年別の数値。中学生以上の「読んだことがある」が半数以上となっている。

(図3)



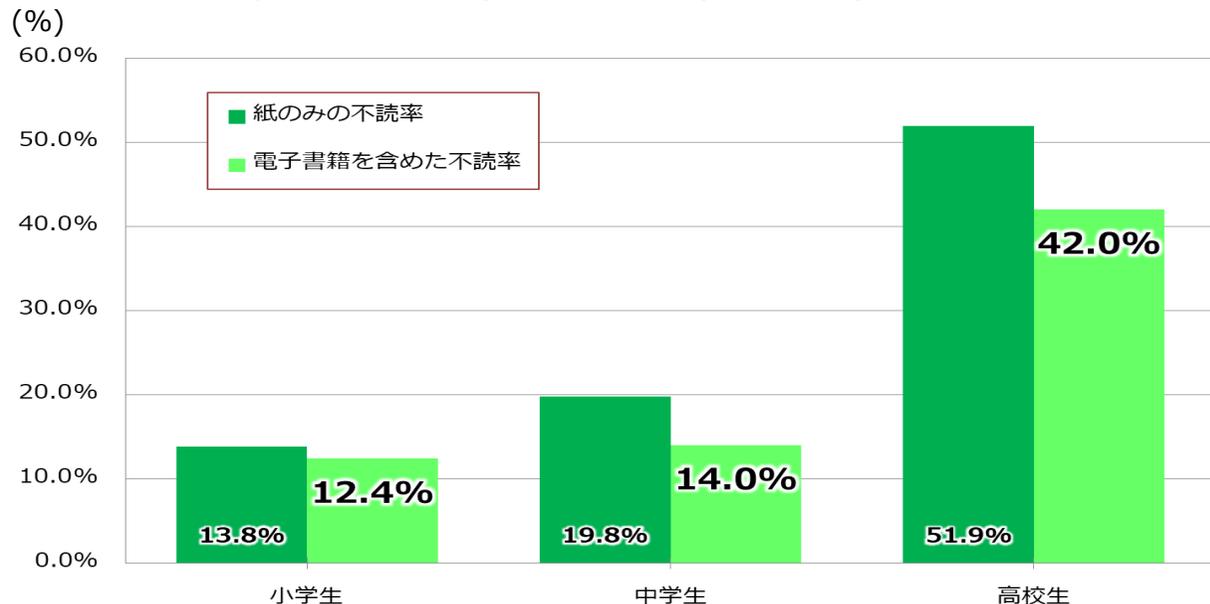
【電子書籍の不読率（電子書籍を1ヵ月間に1冊も読まなかった児童・生徒の割合）】



左図は、電子書籍を読まなかった児童生徒の過去3年間の推移である。

R6は小学生と中学生が大きく下がっているのので、電子書籍が浸透していることが分かる。R6の高校生はやや増加したが、どの校種もR4と比較すると減少傾向である

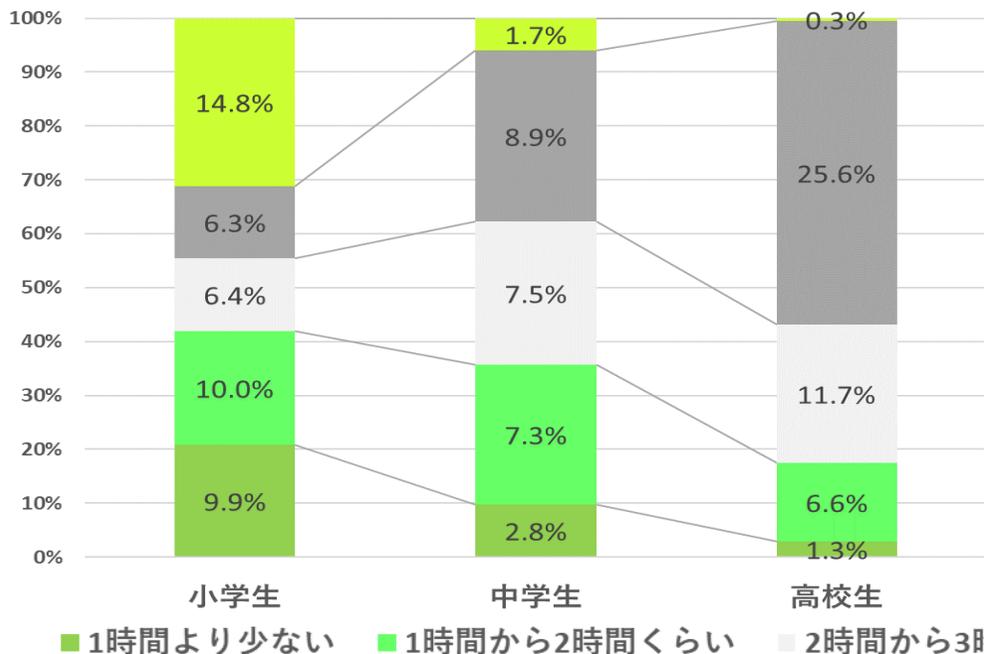
※紙のみの不読率と電子書籍を含めた不読率の比較



紙の本のみの不読率と比較すると、**小学生-1.4ポイント、中学生-5.8ポイント、高校生-9.9ポイント**となり、**全ての校種で不読率が低下した**。校種が上がるにつれて、下げ幅が大きくなっている。

電子書籍を含めると、中学生は不読率の数値目標を達成した。

【1日あたりのスマートフォン（携帯電話）の使用状況】



左図のとおり、校種が上がるにつれて「3時間より多い」が多くなっており、**特に高校生の割合が多い**。

下図は、児童・生徒を校種別に「読者」「不読者」に分け、それぞれ「1日あたりのスマートフォンの使用状況」を表したものの。

どの校種も「3時間より多い」と答えた割合は、読者よりも不読者の方が大きく上回っている。

※1日あたりのスマートフォンの使用状況（不読×使用状況）

